

あ い さ つ

京都府高等学校体育連盟
会長 山本 誠 三
(京都府立乙訓高等学校長)

平成 24 年度京都府高等学校体育連盟「高体連誌第 52 号」の発刊に当たり、ごあいさつ申し上げます。

まず、加盟校、各専門部の皆様の御支援・御協力の下、本年度を終えることが出来ましたこと、誌面ながら厚く感謝し、心から御礼申し上げます。

本連盟では諸会議（理事・評議員会、専門委員長会議、中・高連携会議）と各種体育・スポーツ振興事業（選手派遣、大会開催、競技力向上、調査研究、広報、一般生徒対象）と、例年のことながら非常に盛り沢山の事業に取り組んで参りました。

とりわけ、北信越ブロックでの全国高校総体をはじめ、全国高校定通大会、その他の全国大会においては、団体種目入賞数 16、個人種目入賞数 104 に上り、団体での優勝は少なかったものの、京都の高校生は意気揚々と臨み大活躍してくれました。また、第 48 回近畿定通大会が本府での開催でありましたが、年々、各府県・各校とも入部者数の減少傾向が大きな課題となっており、加えて大会運営体制を整えることが懸念されていましたが、全日制専門部の御支援・御協力の下に無事・成功裏に終えられたことは、京都のスポーツ心「京都は一つ」を具現化する実に嬉しいことでありました。

また、ここ 2 年間連続して減少傾向に転じていた運動部への加入率も本年度は持ち直しましたが、中・高の運動部活動の連結に向けた合同練習会の実施促進や検討会議も進めてはいるものの、継続・定着化を決定づける起爆剤には至っていないところです。

幸い、一昨年度から加盟分担金の値上げをお願いしましたおかげで、事業運営面では、従来通りの活動を行う上での財源が確保でき、安定期に入ったと言えます。それだけに、一般生徒対象事業の充実をはじめ、加盟校はもとより、関係者の深い理解と応援をいただける連盟として、より充実した活動を企画し進めて行く必要を改めて肝に銘じているところです。

何より、今年度は高体連組織はもとより、高校生の運動部活動の存在を根幹から揺るがすほどの世論となりました「体罰」事象がつぎつぎと明るみに出、これまで先人から積み上げられた実績やスポーツの価値までも全否定されたかのような世論で、その在り方を問われる年ともなりました。急遽、府教委との共催で「特別研修会」も実施しましたが、指導の在り方についても、一過性に終わらせず、継続的に研究し、工夫・努力を重ねる必要を感じています。運動部活動やスポーツへの信頼感とその価値は、それを経験し、指導者の道を歩んできた私どもこそが取り戻せるものと自負しています。とりわけ各専門部におかれましても、今一度高校生の体育・スポーツの発展充実とともに、本連盟の活動を通じた人間形成に寄与できる取り組みが進みますよう英知を結集していただきたく存じます。

結びに当たりまして、本連盟に対して御協力と御支援をいただいている関係の皆様を重ねて御礼を申し上げまして、発刊のあいさつとさせていただきます。